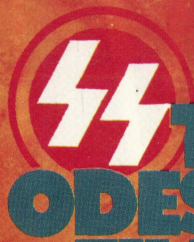


「ジャッカルの日」のフレデリック・フォーサイス原作(ボセイドン・ランドベンチャー)のロナルド・ニーム監督

全世界を震撼させた恐るべき秘密——《オデッサ》  
その謎を追って展開する息づまる超サスペンス!

 THE  
ODESSA  
FILE



〈カラー作品〉  
パナビジョン

製作 / 「ジャッカルの日」のジョン・ウルフ  
撮影 / 「ナパレオンの要塞」のオズワルド・モリス  
音楽 / 「ジーザス・クライスト・スーパースター」の  
アンドリュー・ウェーバー/ティム・ライス  
主演 ジョン・ボイト/マキシミリアン・シェル  
メアリー・タム/マリア・シェル

原作・邦訳・角川書店刊

サントラ盤(MCAレコード)/主題歌ベリー・コモ(RCAレコード)

次回待望のロードショー

伊勢丹会館ヨコ

新宿ピカデリー

(354)  
2411

コロムビア映画







■ 世界中から選り抜かれた最高のスタッフ！ 最高の面白さ！

■ 凄い見応え！第一級の超大作！

フレデリック・フォアサイスが「ジャツカルの日」に続いて書いたベストセラーの完全映画化。前作より凄い迫力とサスペンスに富んだストーリーとしての評判が高く、日本でもすでに邦訳版が二十万部近く売れている話題作だ。映画は原作以上の息づまるスリルを盛りあげ、全世界にすさまじい「オデッサ」ブームを作っている。

「オデッサ」とは何か？ 一人の若いジャーナリストを主人公に、世界的に驚愕すべきある秘密を鋭くあばいたこの超大作は、事実とフィクションを巧みにおりませながら、強烈なサスペンスをつくり出している。

主演は「真夜中のカーボーイ」の好漢ジョン・ボイト、主演は「初恋」のマキシミリアン・シュル、そして新人の美人女優メリリー・タムら。

■ 面白さ抜群のストーリー展開とアツと驚くラストの迫力！

一九六三年十一月、アメリカのガラスでケネディ大統領が暗殺された。その日、西ドイツのハンブルグで、ひとりの若いジャーナリストが、愛車の中でその臨時ニュースを聞いていた。彼は商売柄、そのニュースをじっくり聞かぬ車を道端に寄せて止まった。その傍を一台の救急車が走り抜けた。持ち前のジャーナリスト根性を発揮した彼は、何の気なしに救急車のあとを追った。

もし、この夜、彼がカララジオをつけていなかったら、或いは救急車にあわなかつたら、この物語は始まらなかった……。

こうした原作と同じ出だしで始まるこの映画は、ジャーナリストのベーターが、救急車のあとについていって出会う一人の老人の死から、ある恐るべきことを発見する。それは全世界にとっても、また彼自身にとっても驚愕すべきことだった。その秘密をあばくため彼の行動が開始される。こうして、この息づまるサスペンスはものすごい迫力で観客を叩きこんでいく。そしてラストでは、思いがけないドーンデン返しが仕組まれ、二時間八分という長さがまるで一時間くらいにしか思えない面白さだ。

■ 「オデッサ」ブームをつくった鬼才フレデリック・フォアサイスの原作！

「ジャツカルの日」で一躍世界中にその名を轟かせたご存知フレデリック・フォアサイス。彼の第二作目のベストセラーがこの「オデッサ・ファイル」だ。一九三八年生まれで、ロイター通信の海外特派員としてヨーロッパ各国に駐在した彼は、六九年以降はフリー・ランスのレポーターとして、欧米の主要新聞雑誌に寄稿。ジャーナリストとしての旺盛な好奇心、鋭い時代感覚は、モームやグレアム・グリーンを生んだイギリス推理小説の伝統に華を添える才人という評判が高い。彼の作になるこの話題作が、実に見事に素晴らしい迫力で描かれているのが、この「オデッサ・ファイル」である。

■ 総結集された豪華スタッフ！

この全世界注目の超大作を作るにあたって、現在の映画界の超一流スタッフがかりだされた。

製作が「ジャツカルの日」のジョン・ウルフ。脚本は同じく「ジャツカルの日」のケネス・ロスとジョー・マクスタインのコンビ。さらに音楽が「ジ・サウス・クリイスト・スーパースター」の名コンビ、アンドリュース・ウェーバーとティム・ライスの二人。撮影は「ナパロンの要塞」の名手オズワルド・モリス。そして監督が、あの「ボセイドン・アドベンチャー」のロナルド・ニームで、全精力を傾けて実に見事な作品に仕立てている。また、タイトルバックの主題歌を唄っているのは、今アメリカで再び凄人気が呼んでいるポピュラーの大御所ペリー・コモといった豪華な顔ぶれである。

■ これが「オデッサ」だ！

「オデッサ」とは、国名でもなければ地名でもない。これはドイツ語の *Organisation Der Ehemaligen SS-Angehörigen* (元SS隊員の組織のイニシャルをつなぎあわせた略語である。SSとは、アドルフ・ヒトラーのもと、ハインリヒ・ヒムラーによって支配されていた、軍隊の中の軍隊ともいえる存在で、一九三三年から四五年まで、ドイツを支配したナチス第三帝国で特別の任務をもっていた。

中でも最大の任務は、ヒトラーの悪魔的野心を実現させるため、彼が考えた。生存に備わらない「人種を撲滅すること」だった。それが老若男女を問わないすべてのユダヤ人をヨーロッパから抹殺した、史上あまりにも有名な大量虐殺である。

これらの任務を達成するために、SSはなんと千四百万人の人間を虐殺した。敗戦前から、SSの高級幹部は、戦争の敗北を知っていた。彼らは自分たちだけが新しい生活に逃亡できるような準備をすすめていた。莫大な金塊を国外へ持ち出して、スイス銀行に預け、姿形を変え、身分証明書偽造して逃亡経路を設定した。

そして連合軍がドイツを占領した時、大量虐殺をした張本人たちは姿を消していた。

この逃亡を実施するために作った組織が「オデッサ」である。

「オデッサ」によって助けられた元SSの高級将校や隊員たちは、戦後、あらゆる分野に社会復帰したという。身分を隠し、偽名を使って実業界をはじめ警察や役所などの中枢をしめ、もし見つかって法廷に引きだされるようなことがあっても、事前に阻止するほど強い組織をもっている。

そして、あくまでも秘密は守られ、組織の中で固く結ばれているのであった。

この映画のタイトルになっている「オデッサ・ファイル」とは、こうした秘密組織の一連の氏名を列記した、まさに秘中の秘のファイルなのである。映画はこの「オデッサ・ファイル」をめぐる凄惨なサスペンスが展開されていく。